

1. はじめに

旭川市は、北海道のほぼ中央、上川盆地に位置する、人口約35万人の中核市です。明治35年（1902年）1月25日には日本最低気温となる氷点下41度を記録するなど、厳しい寒冷地にありながらも、北海道第2の都市として発展しており、経済、文化、医療のほか、最近では旭山動物園を核とした観光などの分野における北北海道の拠点となっています。

本市は、モンゴル国の首都であるウランバートル市（以下「UB市」という。）との間において、近年都市開発分野に関する国際技術交流を進めております。



図1 旭川市とUB市の位置図

2. UB市の現状について

モンゴル国では、近年UB市への急激な人口移動が進展し、国全体の人口約270万人のうち約120万人がUB市に居住しています。その一方で、都市計画に関する法体系・制度等が不十分なこともあり、UB市郊外では無秩序・無計画に住宅街（ゲル地区）が拡大しており、都市基盤もほとんど整備されていない状況となっています。そのため、計画的に都市開発を進めることが大きな検討課題となっています。

また、UB市はとても厳しい寒冷地ですが、断熱性の低い住居で大量に石炭等を燃焼させるため、冬期間の煤煙による大気汚染が深刻化しており、寒冷地に対応した都市開発技術も必要になっています。



写真1 UB市郊外に形成されたゲル地区

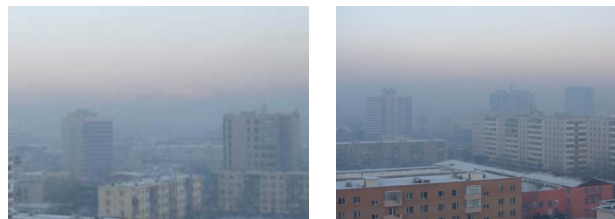


写真2 UB市における冬期の大気汚染

3. UB市との技術交流について

JICA（国際協力機構）では、モンゴル国の都市開発を支援するため、都市開発実施能力向上プロジェクトを進めております。このプロジェクトの長期専門家として本市の技術職員が平成22年6月からUB市に派遣されたことをきっかけに、モンゴル国との交流が深まっております。

平成23年度からは3か年の予定で、本市とUB市との間でJICA草の根技術協力事業（地域提案型）を進めており、本市とUB市の技術者を約2週間程度相手側に相互に派遣し合うことにより、寒冷地の都市開発に関する相互的な技術交流を行っております。

また、平成24年7月からは、UB市の技術者を研修員として半年間の予定で受入れしており、都市計画・土地区画整理・建築・道路・公園・上下水道等に関する技術研修を進めています。



写真3 UB市技術者との旭川市での技術交流状況

4. おわりに

UB市との交流を通じ、都市の健全な発展と秩序ある整備を行うため、都市づくりを計画的に進めることがいかに重要なのか、本市の技術職員も身に染みて感じております。そのため、このような国際技術交流は支援する側にとっても得られるものがとても大きいと考えております。

今後も、本市が有する寒冷地対応の高い都市開発技術がUB市でお役に立てるよう、貢献していきたいと考えております。